



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会

第20回学術大会・総会 ランチタイムセミナー

大会長：寺内吉継

実行委員長：表茂稔

歯科医師の知らないもう一つの歯科医療

樋口翔太（歯科医師・獣医師）

比較歯科学研究会 / D.V.D.S.(Doctor of Veterinary Dental surgery) / (株)へへへ企画 /
(一社)愛玩動物看護師歯科教育推進機構

ペットが家族と呼ばれるようになって久しいが、その小さな家族も人と同様に口腔内疾患に苦しんでいるをご存知だろうか。獣医学における歯科学は近年著しく発展しており、しかもそれがマイクロスコープ下で専門的な治療を行う時代になっているのだ。演者の場合、全国11カ所の動物病院にて定期的な歯科診療をおこなっているが、そのうち10カ所にマイクロスコープを導入し常に拡大視野での治療を行なっている。体や歯の大きさがヒトよりも小さいというのはもちろんだが、動物の歯科治療を困難にしている一つの要因として全身麻酔がある。一般的に動物の歯科治療は全身麻酔で行うことが多く、基本的には一度の処置で終える必要があることに加え、やり直しが難しい状態である。このため、できる限り見落としを減らすために全ての工程をマイクロスコープを用いて処置を行うことで精度を上げる必要があると考えている。

今回は犬と猫の治療を中心に動物における歯内療法や歯周組織再生療法などを紹介したいと思う。拡大視野で行うだけでなく、歯内療法ではもちろん人と同様にラバーダムやニッケルチタンファイルを使用し治療を行う。しかしながら、犬の歯に合うクランプなどは世界的にも開発されておらず、治療を始めた当初は装着を行うだけでも非常に難渋した。また、マイクロCTを購入し抜去歯を撮影しデータの蓄積を行なっているが、その中で人とは根尖の形態やテーパーが異なることを発見した。このため、様々なテーパーのファイルを使用する必要があることを見出したりと、手探りの状態ではあるが日々動物の歯内療法は進歩している。歯周病治療においてはヒトと比較し骨再生能力が非常に高く、わずか数ヶ月で顕著な骨再生を認めることも少なくない。動物の歯槽骨の再生スピードや修復能力には多くの歯科医師に驚愕していただけるだろう。

ぜひ会場でお聴きいただければ幸いである。

◀ 学会及び研究活動

- 比較歯科学研究会
- 日本歯周病学会
- 日本獣医師会
- 日本獣医麻酔外科学会

◀ 主な研究業績

- 2017年6月 第24回九州地区小動物獣医師会卒後研修会 坂本賞
- 2017年6月 第94回日本獣医麻酔外科学会春季合同学会 アワード・優秀賞
- 2017年10月 平成29年度九州地区獣医師大会 学会長賞
- 2021年10月 令和3年度九州地区獣医師大会 フレッシュアワード
- 2022年6月 第24回九州地区小動物獣医師会卒後研修会 坂本賞
- 2022年10月 令和4年度九州地区獣医師大会 フレッシュアワード
- 2023年6月 第25回九州地区小動物獣医師会卒後研修会 坂本賞
- 2023年10月 令和5年度九州地区獣医師大会 フレッシュアワード
- 2019年1月 線副子を用いた下顎骨骨折の治療法 インターズー SURGEON 133
- 2020年10月 拡大視野を用いた犬の歯周病治療 伴侶動物の治療指針 Vol.11